

安芸さんが全国で銅賞
ミスがなければ良い作品に

中川原君 溶接甲子園へ

「練習通りにできた」

全道選抜で3位 来年は全国目指す



須田君 2位で全国出場

「寸法をミスしない」

フトも思い出の一つだ。味は抹茶に似ているが、抹茶ソフトとは少し違い、新たなソフトクリームを堪能できて良かった。そして、稚内では鹿を見た。普段の生活ではあまり見ることがないため、稚内ならではの光景だと感じた▼2泊3日で多くの場所を巡り、家族や友達と一緒にさまざまな景色や体験を楽しむことができた。北海道の自然の広さや美しさを改めて感じることで、充実した夏休みになったので、2学期からも頑張っていきたい。

（電2兵藤）

中学生部
体験入部

「雰囲気良く楽しめた」

吹奏楽部 マンツーマンで指導

中学生に向けての部活動体験入部が8月17・18日に行なわれ、中学生128人の申し込みがあった。当日大会のあったバスケットボール部の体験入部は8月30日に行なわれ、中学生19人が参加した。吹奏楽部には3人が体験入部をした。中学生の感想を紹介する。

演奏会に来てくれた人を楽しませたい」と話した。

パーカッションを指導した佐々木輝月君(土2)は「高校にある楽器の種類を教え、次にスティックで基礎打ちをやった。メトロノームを使って均等な音量と正確なテンポで叩く練習を4分音符8分音符、16分音符の順にやった。中学生は吹奏楽の経験者だったので、高校から吹奏楽を始めた私が教えるのは大変だった。最後に全員で合奏をしたので、演奏のアドバイスをした。中学生にはぜひ旭工に入学し吹奏楽部に入ってもらいたい。私ももうとうまく教えられるように努力していきたい」と話した。

たので、高校から吹奏楽を始めた私が教えるのは大変だった。最後に全員で合奏をしたので、演奏のアドバイスをした。中学生にはぜひ旭工に入学し吹奏楽部に入ってもらいたい。私ももうとうまく教えられるように努力していきたい」と話した。

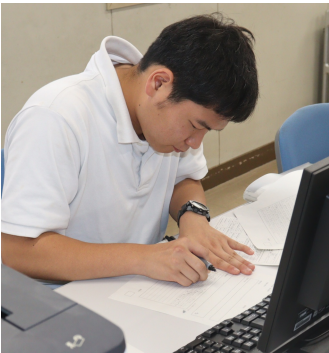
成する。道外の企業を受ける高橋一希君(電3)は「履歴書の作成はとても苦労した。和田亮一先生と福田章央先生からアドバイスを受け、自分がしたいことを言語化できた」と振り返り、後輩には「履歴書は入りたい企業で何をしたいのか、その企業の何にひかれたのかをはっきりさせると作成しやすくなる。旭工で頑張ったことを書くように学科で全員が受ける資格はできるだけ取得し、部活動にも加入する」と話した。

と良い」と話した。道内の企業を目指す山口凛汰稜君(電3)は「履歴書は自分で伝えたいことの土台を考え、親とフラッシュアップしながら完成させたので、苦労はしなかった。中谷真樹先生からのアドバイスもあり、より良いものを作ることができた」と話し、後輩には「部活動、特に運動系の部活動に所属すると礼儀が身に付き、それが普段の態度や文章、面接にも表れる。ぜひ部活動に所属してほしい」と語った。



タンバリンを打つ男子中学生

吹奏楽部に体験入部した東神楽中学校の男子生徒(3年)は「旭工に中学校でやっていた部活動があったので参加した。吹奏楽部の先輩がマンツーマンで指導してくれた。また、顧問の先生が活動中に雑談をたくさんくれたので雰囲気はほぐれて気軽に楽しめた。建築科に入りたいと思っている。入学し吹奏楽部に入ったら



履歴書を作成する3年生

履歴書作成

やりたいことを言語化

昨年からエクセルで作成

就職を希望する3年生は夏休みを利用して履歴書を作成した。昨年からのエクセルを使って作成するので、手書きのときには間違えると何回も最初から書き直しをしていたが、その負担がなくなった。電気科の履歴書作成は情報

夏季講習

大学進学に向け受講

勉強の積み重ねを大事に

3年生の数学の進学講習が森嶋晋平先生を講師に7月30

日と8月3日の2日間開かれた。3年生1人が受講した。

い」と将来への期待を語り、中学生に向けて「専門分野では市民の生活を守るインフラ

について学ぶ、工業が好きな人は旭工に入学してほしい」と学ぶことの意義を語った。

講習を受講した山本創太君(情3)は「北見工業大学を志望している。筆記試験対策として数学Iをもう一度勉強



マンツーマンで教える森嶋先生

電気科 電気の楽しさ伝える
中学生が高所作業車を体験

電気科3年生の課題研究班は中学生を対象にした学科紹介を8月22日に開催した。マルチバイブレーター回路の製作と下村電気株式会社との協力で高所作業車の乗車体験が行

なわれた。

神楽中学校の男子生徒(1年)は「高所作業車の乗車体験で高い所からの景色は絶景だった」と笑顔で振り返り、

「マルチバイブレーターの製作では部品の役割を理解することが難しかった。旭工生から分かりやすく教えてもらったことで、ものづくりの楽しさを実感した。ぜひ旭工へ進学したい」と興味を深めた。



高所作業車で木につるしたお菓子を取る中学生

高所作業車で木につるしたお菓子を取る中学生を深めた。

課題研究班メンバーの林幸汰君は「回路が完成し、動作したときに中学生が喜んでいて達成感が見られた。実際に手を動かして電気回路を製作することで電気の楽しさや魅力を伝えることができた。高所作業車の乗車体験では普段できない貴重な体験を楽しんでもらえた。説明の難しさや参加者募集などに課題があった。次回は説明方法を工夫するとともに、早い段階から計画的に準備を進め、より多くの中学生に電気や工業の魅力を伝えられる体験会を企画したい」と振り返った。



アドバイスをする情報技術科(右)

情報技術科

3Dでポケモン制作

予想外のトラブルに苦勞

情報技術科は中学生を対象にした夏の体験授業CG作成を8月7日に4階データ処理実習室で開催した。講師は情報技術科の3年生8人が務め、中学生27名が参加した。内容は「Blender」というアプリケーションを使い、3Dでポケモンイラストのキャラクターのレジアイスを制作するもの。

小久保怜君(情3)は「体験

情報技術科は中学生を対象にした夏の体験授業CG作成を8月7日に4階データ処理実習室で開催した。講師は情報技術科の3年生8人が務め、中学生27名が参加した。内容は「Blender」というアプリケーションを使い、3Dでポケモンイラストのキャラクターのレジアイスを制作するもの。

小久保怜君(情3)は「体験した夏の体験授業CG作成を8月7日に4階データ処理実習室で開催した。講師は情報技術科の3年生8人が務め、中学生27名が参加した。内容は「Blender」というアプリケーションを使い、3Dでポケモンイラストのキャラクターのレジアイスを制作するもの。